失恋の癒し方。

藍河　美紗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
失恋の癒し方。

【Ｎコード】
Ｎ４９７３Ｚ

【作者名】
藍河　美紗

【あらすじ】
ひょんなことでケンカをし、成り行きで別れてしまった蒼と樹依。しかし、以前の恋の協力者であった啓弥の事が頭から忘れられないようで……。

×　　×　　×

「じゃぁあたしが蒼(そう)の事どんだけ好きか分かってんの！？」

「……知らねぇし…」

ひょんなことで　あたし樹依(きい)は彼氏の蒼とケンカしてしまった。

「蒼はあたしの事好きじゃないの？」

「……ってか、…俺最初っからあんまり樹依の事好きじゃなかったから…」

ーーーー一瞬あたしは頭が真っ白になってしまった。

蒼、あたしの事嫌いだったの？

ふつふつと怒りがこみ上げてくる。そしてあたしはとうとうこう言ってしまった。

「じゃぁもういいよ！！あたしだってそんな事言われたら気持ちも冷めるっつーの！」

「じゃぁ……別れんの？」

「蒼がいいならあたしも別れる。…もう、無理」

「俺も無理だわ。じゃ、別れよう」

あたしは思ってもない事がどんどん口から出てくる。もう、嫌われてもおかしくない位。

あんなに好きだったのに。

愛されてると　思ってたのに。

冷めると　こんなに　こんな変な気持ちになるんだ。

あたしは歩く。蒼と別れた道を。

ふと、視界がにじむ。

別れた事が悲しくもないのに、なんでか泣いてる。

悔しい。苦しい。愛してたのに。

もっと　いっぱい　愛されたかったのに。

もう　戻って来ないんだって　思うと　それはそれで　悲しい気もするけど　でも　忘れられない恋じゃ　ないから。

だから、もう考えちゃ、だめ。

×　　×　　×

蒼と別れて1週間。

あたしは未だに、蒼の事を忘れられてない。
蒼を学校で見るたびに、ケンカした時の事を思い出してしまって。
でも、１週間前から、変わった事がある。
男子が、信じられなくなった事。
信じたいけど、信じられない。
蒼の「最初から好きじゃない」って言う　その一言で。
授業中、今まで蒼とあたしの事を協力してくれた男友達、見田（みた）　啓（けい）弥（いや）にその事を言った。なんでか分かんないけど、多分慰めてほしかったのかもしれない。
「うっそ、マジのホント！？」
「マジのホントだし、そんなノリじゃないし。」
「あ…悪ぃ、で、なんでそんななったん？」
「……最初っからあたしの事そんなに好きじゃなかったんだって。もうお互い無理だと思ったんじゃない？多分。」
「多分…て、自分の事だろーが。樹依はそれでよかったのかよ？」
「よかった、と思う。別れた最初は苦しかったけど、冷めるともうそれっきり。みたいな」
「……そ、っか」

「…？うん」

あたしは少し啓弥の反応に戸惑ったが、自分の本音を全部啓弥に言おうと思った。

「……あたしね、ほんとは愛してもらいたかったんだと思う、蒼に」

「……うん」

「でも、もういい」

「え……、なにが？」

「蒼。……諦める。忘れる。」

啓弥が少し驚いて、ちょっと考えてからこう言った。

「……ほんとに、いいの？」

「いいよ。もう、ダメだもん。これ以上考えても、絶対時間の無駄。苦しいだけだし。」

「ああ、そっか……（苦笑　あんなに好きだったのにねぇ」

「いいんだってば。……あたしは新しい恋を探す。」

そんな風に決心してるあたしを怪しげな眼で見る啓弥。そして、こう言う。

「……そんな事言って、すぐ忘れるわけないでしょ、樹依なんだから。」

「それ、どういう意味？」

「……教えない。」

「……？なにそれ」

「樹依は優しすぎるから、しかも天然だし、そう簡単に忘れられないと思うけど、って意味（笑」

「……っ、天然じゃ、ないし……（恥」

「天然です（笑ｗｗ」

…なんか、変な感じがする。なんだろ。
胸が、また締め付けられる。啓弥のせいで。

苦しいのとは、ちょっと違う、もう少し、優しいもの。

「あーあ」

「何？」

「……1回でいいから、誰かに本気で愛されたいなぁ」

×　　×　　×

少しだけ　笑みを浮かべて笑う　樹依が目に入る。

ーーーーー俺は、俺がもし、蒼の立場だったら、樹依の事絶対、マジで愛したいのに。

今、樹依といて　いちばんそう思った瞬間、だった。

胸が、苦しかった。

樹依は　もしかしたら　中学校にいる間　蒼の事　忘れないんじゃないかって　思ったから。

そんな事、もう嫌なのに。

樹依は　きっと俺の事　何とも思ってなくて。

ただただ　蒼と樹依をくっつけた　ただのいい人ってだけで。

でもきっと、俺は、

俺、は――――――――？

「でもさ、」

俺は、頭の中が　真っ白になった。

×　　×　　×

「でもさ、樹依の事、好きな人、一人はいると思う。」

「……なんで分かるん？」

「……なんとなく。かな。でも、絶対いる。」
「……変なの、なんでそんな自信満々なの？」
「だーかーら。なんとなく！」
「……ふーん……ほんとに、今日の啓弥、変」
「変じゃない！！……から。」
なんとなく様子が変な啓弥を見る。なんなんだろう、ほんとに。
そして、終業のチャイムが鳴った。
チャイムと同時に、また啓弥が変な事を言ってきた。
「……あと、今日、帰り、……一緒に帰ろ」
「……？…別に、……いいけど……なんで？」
「……なんとなく！！！」
と、そう返ってきた。
今日、啓弥なんとなく多いな……気のせいか。
×　　×　　×
下校の時間。
校門の前で待ってたあたしは、玄関の方から蒼が歩いてくるのが見

える。あたしは見えないふりをして前を向く。
３０秒くらいったっただろうか、後ろから啓弥の声が聞こえた。
「樹依ー、待った？」
「んーん、あんまし、待ってない――――――――」
そこにいたのは、啓弥だけだと思ってたら、蒼もそこにいた。
「……何で、…蒼がいんの？」
「通り道だし、一緒に帰ってたもん、な！！」
「……お、おう」
仕方なく、３人で帰る事になってしまった。……凄く気まずい。まぁ蒼の方が家は近いんだけど。
蒼には、苛立ちしか浮かんでこない。一緒にいても、全然嬉しくない。
でも、なんでだろう、……なんでこんなに浮かれてるんだろう。
と、啓弥が沈黙を破ってこう言った。
「蒼、もう樹依と話さねぇの？気まずいやん、こういう空気。」
「いいんだって、もう。俺の事嫌いだからそういう事言えたんでしょ？」

「……そう思うならそう思ってれば」

「…言われなくたってそうしてるし」

ああ、また。思ってもない事、言ってる。もう、好きじゃないけど、そんな事、思ってる訳じゃないのに。

「……じゃぁ、また明日ね、啓弥」

「うん、ばいばい（ニコ」

「……」

あたしは意地はって、じゃあねも言えなかった。

蒼が帰って少しだけ沈黙が流れる。ふと疑問が浮かんで、あたしは啓弥にこう言った。

「……ねぇ、なんで今日帰るの誘ったの？あたしの事。」

「……何でだと思う？」

「…もしかして、蒼とあたしが復縁してほしいって思ってる？」

「……いや、ちょっと、違う。」

……じゃぁ、なんでほんとに誘ったんだろう。

「……じゃぁ、なんで？」

そう言った瞬間、啓弥はあたしの体を啓弥の方に寄せて。

びっくり、した。

あたしは、抱きしめられた、らしい。

「……？な、なに……？」

「……好き」

好き、確かに啓弥はあたしの耳元で、そう言った気がした。

「……愛してほしいって、さっき樹依、言ってたけど」

「……うん」

「……俺じゃ、ダメかな……？」

一瞬、意味が分からなかった。

「……俺は、樹依の事大好き。愛してる。蒼よりずっと。だから、もし樹依が俺の事好きって言ったら、俺がとことん樹依の事愛してやる。」

……あ、解った

胸が苦しかったのは　これだ。

啓弥が　優しすぎたんだ。あたしが優しすぎるんじゃなくて。

あたしは、啓弥の想いに応えるべく、こう言った。

「……ほんとに、あたしの事、愛してくれるの？」

「うん。もう、しつこい位。」

と、それを言うと、啓弥はあたしを抱きしめてる手を離し、肩に両手を乗せてあたしの目を見る。

「ってか、あたしでいいの？ほんとに……」

「うん。ってか、樹依じゃなきゃやだ。樹依しか愛せないし。」

そう言った啓弥の笑顔は、あたしが今愛してる人の大好きな笑顔だった。

そんな風に思いながら。

本当に愛してくれる人は、素直でいられる人なんだって、あたしは人生で初めて思った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4973z/

失恋の癒し方。

2011年12月16日22時53分発行